

マレーシア語母語話者のターンテイキングに関する一考察

勝 田 順 子

A Study on Turn-taking of Malay Malaysian Speakers

KATSUDA Junko

〈要 旨〉

This thesis is a comparative analysis on how speakers of two languages, namely native Malay language speakers and native Japanese language speakers, take turns in their respective conversations. From the data analysed in this study, it is observed that Malay Malaysian language speakers mostly take turns without both back channels and discourse markers (92% of all the turns in Malaysian conversations are taken without both ways mentioned above.) .

On the other hand, according to Chin (2005) in case of Japanese speakers, 57% of turns are taken by using either back-channels or discourse markers. Other Japanese researchers such as Mukai (1999) and Hajikano (1998) mention tendency of Japanese to use backchannels and discourse markers to take turns. From this study, it can be concluded that there are significant differences between ways of taking turns by Japanese speakers and Malay Malaysian speakers.

キーワード：ターンテイキング、マレーシア語母語話者、日本語母語話者、あいづち、デイスコースマーカー

1. はじめに

会話におけるターンテイキングについては、日本語話者と中国語話者との話者交替の仕方（楊：2007、賈：2008）、日本語話者と韓国語話者との話者交替の仕方（金：2000, 2001）について、その相違の一端が明らかになりつつある。

また、日本語話者の会話において、「新たなターンの始まり」には、「あいづち」が使用されることがある（小室：1995）。なお、「新ターンの始まりで打たれるあいづち」の対照分析（日英中（Clancy et al.:1996）、日台（陳：2005））はあまりなされていないため、「ターンを取る際に、その冒頭で使用されるあいづち」が日本人の会話に特徴的なものであるかどうか、結論が出るには至っていない。

会話におけるターンテイキングについては、日本語と上述の英語、中国語、韓国語以外の言語との対照談話分析を行ったものはほとんど見られない。

本稿では、今まで調査されることがなかったマレーシア語話者同士のマレーシア語によ

る会話の「ターンテイキング」がどのように行われるのかを調査、分析し、これまでの日本語話者の結果と比較する。

2. 先行研究

Mukai（1999）では、学習者のあいづちの機能の分析において、上級学習者があいづち的表現から turn-taking を行っている例を挙げ、これは「相手への配慮を示しながら発言権を取るための重要な会話管理の技術の一つとして教室でも指導していくことが大切」と述べている。また、初鹿野（1998）では、討論とインタビューにおける発話ターンの交替時に現れるテクニック（5種類）を分析し、その中で、「ターン交代として機能するディスコースマーカによって始められる」や「あいづちをうつことで、発話権を求めていることを相手に知らせ、ターンを始める」ものを提出しているが、それぞれの頻度については記述されていない。

陳（2005）は、聞き手が次の話し手となり、新たなターンの始まりの位置に生起するあいづちについて、日台の相違を比較した結果、日本語のほうが、前置きなしに次に新しいターンに移行する割合が高い（31.1%）こと、また、日本語においてはあいづち（26.2%）よりもディスコースマーカ（「あのう」や「それで」など）（35.9%）が使用されるとしている。

以上より、日本人の会話において、ターンが交代する際にはあいづちやディスコースマーカが使われることがあることがわかる。また、陳（2005）の結果より、あいづち及びディスコースマーカがターン交代時に使用される割合は 57.1%と高い割合を示している。

3. 調査方法

マレーシア語母語話者（女子大学生の友人同士）にテーマは与えずに、自由会話をしてもらい（約 14 分間）、その様子をビデオカメラ及び、IC レコーダーに録画、録音した。会話は全て文字化及び翻訳し、分析の対象とした。

4. 分析方法

会話において、ターンテイキングの起こった部分を文字化資料より取り出した。総ターン数（話者交替数）は 199 であった。次に、ターンテイキングがどのような方法で行われているのかを分析した。まず、ターンテイキングがスムーズに行われている場合（5 - 1）、ターンテイキングがスムーズに行われず、聞き手の割り込みによって行われている場合（5 - 2）の 2 種類に分け、分析した。

5. 分析結果

5-1

総計 13 分 30 秒間の会話において、ターンテイキングは 199 回行われていた。そのうち、ターンテイキングがスムーズに行われていたのは、192 回であった。それを、ターンテイキングの方法別に分類すると以下のようになった（表 1 参照）^(注 1)。

表 1 マレーシア語母語話者によるマレーシア語会話におけるターンテイキングの方法
ーターンテイキングがスムーズに行われた場合ー

ターンテイキングの方法	回数
(前置き) + (先行発話に対する情報・意見・質問要求又は新たな情報・意見・質問要求の提示)	3
(あいづち) + (先行発話に対する情報・意見・質問要求又は新たな情報・意見・質問要求の提示)	13
(先行発話に対する情報・意見・質問要求・質問への応答又は新たな情報・意見・質問要求の提示)	175
総ターンテイキング数 (ターンテイキングがスムーズに行われた場合)	191

表 1 より、ターンテイキングが行われる際に最もよく使用される方法は、「前置き」（「でも」「それで」など）や「あいづち」を伴わず、「先行発話に対する情報・意見・質問要求・質問への応答又は新たな情報・意見・質問要求の提示」のみを発話する場合であり、総話者交替数の 82%（175 回）を占めている。以下に例を挙げる（例 1 と 2）。

例 1 ^(注 2)

A: tapi tu lah..ok lah semalam alhamdulillah ok

でも、そんなの。アルハンドゥリラー（神のご加護のおかげで）大丈夫だったよ、昨日は。
⇒ B: dapat markah penuh?

満点取った？

A: tak de la penuh kot..tapi ok lah sebab dapat sampai kan pembentangan tu dengan lancar
多分満点じゃない。でも、大丈夫。スムーズにプレゼンテーションできたから。

例 1 において、A は授業でプレゼンテーションを行ったことについて話している。プレゼンテーションは大丈夫だったと発話したのに対し、B はその A の発話について、「あいづち」や「前置き」を発することなく、直後に「満点取った？」と先行発話に対する質問をしている。

例 2

B: ada ape? Pokok getah eh [getah tu sawit ada tak?

何があるの？ゴムやし？天然やしはないの？

A: [↑ getah:
ゴム .

A: a: sawit ada..sawit ada,

あー , 天然やしはあるよ .

B: uh:m.

うーん .

A: getah tak banyak sangat la. Sawit ada (2.0)

ゴムやしはそんなにたくさんは無い . 天然やしはある .

⇒ B: Kuantan dekat tak dengan cameron highland?

クアantanはキャメロンハイランドと近くないの？

A: jauh, dia lagi dekat a:, kalau macam dari Selangor

遠いよ . そこはもっと近い、あー , セランゴールとかからならもっと近い .

例 2 では、A の田舎には何があるのかについて話しているが、A が「ゴムやしはそんなにたくさんは無い。天然やしはある」と答えると、次のターンでは、B は「クアantan [A の田舎] ^(注3) はキャメロンハイランドと近くないの？」と、それまでの話題とは異なる新しい話題を開始する。その際、「あいづち」「前置き」表現は発話されていない。

次に、話者交替が行われる際に取られる方法は、「(あいづち) + (先行発話に対する情報・意見・質問要求又は新たな情報・意見・質問要求の提示)」である。これは総発話交替数の 7% を占めるにとどまる。以下、例を挙げる (例 3)。

例 3

B: subjek agama je lah sekolah agama:h h h

宗教だけだよ , 宗教学校では

⇒ A: ha: tak de subjek bahasa Melayu ke:[***

あー , マレー語は無いの？

B: [tak de:, sekolah ke bangsaan jarang ada yang=
無いよ . 国民学校はめったに代わりの先生は

=nak cikgu ganti

必要としていないしね.

例3では、アルバイトの話をしていて、宗教学校ではどのような科目が教えられるかについて、Bは「宗教だけだよ」と発話し、それに対し、Aはまず、“ha:”と「あいづち」を打ち、次に「マレー語は無いの?」と質問要求をしている。

最後に、発話交替の際に取られる方法として、3回のみ観察されたものは、「(前置き) + (先行発話に対する情報・意見・質問要求又は新たな情報・意見・質問要求の提示)」である。次に例を示す(例4)。

例4

B: [um kena bayar

うん,払わないといけない.

⇒ A: tapi ingat bayar yuran (1.0) [je

でも一、授業料だけ払ったと思うけど.

B: [tak,mahallah pun kena bayar, dia kalau macam=

ううん,寮代も払わないと長期セメスターなら,

=semester yang panjangni,mahallah kita akan bayar empat ratus lebih kan?

私たちの寮は400以上払うでしょう?

例4では、ショートセメスター(通常より短い学期)には寮費を払わないといけないのかどうかについて話している。Bは「[寮費]払わないといけない」と発話したのに対し、Aはまず“tapi”(でも)という「前置き」を使用して発話を開始し、次に「授業料だけ払ったと思うけど」と反対意見を述べている。

5-2

総計13分30秒間の会話において、ターンテイキングは199回行われていた。そのうち、ターンテイキングが聞き手による「割り込み」によって生じたのは8回であった。それを、ターンテイキングの方法別に分類すると以下ようになった(表2参照)。

表 2 マレーシア語母語話者によるマレーシア語会話におけるターンテイキングの方法
－ターンテイキングが「割り込み」によって行われた場合－

ターンテイキングの方法	回数
(前置き) + (先行発話に対する情報・意見・質問要求又は新たな情報・意見・質問要求の提示)	0
(あいづち) + (先行発話に対する情報・意見・質問要求又は新たな情報・意見・質問要求の提示)	0
(先行発話に対する情報・意見・質問要求・質問への応答又は新たな情報・意見・質問要求の提示)	8
ターンテイキング数 (ターンテイキングが「割り込み」によって行われた場合)	8

表 2 より、ターンテイキングが聞き手による「割り込み」によって行われる場合、使用される方法は全て「(先行発話に対する情報・意見・質問要求・質問への応答又は新たな情報・意見・質問要求の提示)」であった。つまり、「あいづち」や「前置き」を使用した割り込み発話は皆無であった。以下に例を挙げる (例 5)。

例 5

A: tapi kalau jalan kaki 15 la, 10 ke 15 minit, [tapi kalau naik kereta 5 minit je,
でも, 徒歩なら 15 分, 10 分から 15 分. でも車なら 5 分だけ.

B: [um
うん.

A: memang sangat dekat dan [a
本当にすごく近くて,

⇒ B: [boleh mandi la dekat pantai tu
その海岸で泳げる,

A: boleh-boleh, pantai yang tak boleh mandi pantai dekat Terengganu a[a:
泳げるよ. 泳げないのはトレンガヌのうみだよ, あー,

例 5 は、A が「[自分の田舎のうちから海岸まで] 徒歩なら 10 ～ 15 分で、車なら 5 分で、非常に近い」という主旨のことを述べている途中で、B は「その海岸で泳げる」と割り込み、その割り込みには「前置き」や「あいづち」は伴っていない。

以上より、今回調査したマレーシア語母語話者のターンテイキングの方法について分析した結果、次のことが明らかになったと言える。

スムーズなターンテイキング及び割り込みによるターンテイキングの両方の場合において、最も頻繁に取られる方法は、「あいづち」や「前置き」を伴わず、「先行発話に対する情報・意見・質問要求・質問への応答又は新たな情報・意見・質問要求の提示」のみをするものであった（総ターン数の92%）。よって、「あいづち」や「前置き」を伴うターンテイキングは非常に限られていた。

6. 日本語話者の話者交替時における特徴

小室（1995）では、日本人の会話において、あいづちの打たれる「位置」は、PPU（ポーズによって区切られる語句）末付近、終助詞、間投詞、接続詞の後などだけでなく、「話者の発話の最中」、「新たなターンの始まり」も挙げられている。つまり、日本語母語話者の会話においては、発話交替をする際には、ターンを取る者がまず「あいづち」を打ち、次に自分の意見なり、情報を与えるなり、等の発話行動をするということである。また、陳（2005）は、聞き手が次の話し手となり、新たなターンの始まりの位置に生起するあいづちについて、日台の相違を比較した結果、日本人の会話においては、ターンが交代する際にはあいづちやディスコースマーカースが使われる割合は57.1%であったと述べている。

7. まとめ

5、6より、日本語母語話者とマレーシア母語話者のターンテイキングの方法の相違について以下のことが言える可能性がある。

ターンテイキング時に、日本語母語話者は、「あいづち」を打ったり、ディスコースマーカースを使用してから、発話を始める傾向が高いのに対し、今回調査したマレーシア語母語話者は、「あいづち」や「前置き」などを全くせずに、直接発話を始める傾向がある。

8. 最後に

今回のマレーシア語母語話者への会話調査は1組のみであり、この結果を一般化するのは難しいが、今後更に調査を継続し、今回の結果の妥当性を検証していきたい。また、日本語母語話者については、会話調査をまだ行っていないため、先行文献の結果を引用し、それをマレー語母語話者のものと比較するにとどまった。今後、日本語母語話者の会話を収集し、今回の結果の妥当性を検証していきたい。

また、日本語話者とマレーシア語話者のターンテイキング方法の相違は、何に起因する

ものなのか、今後検討していきたい。

(注)

(1) 表にまとめた3つの項目は、今回の調査結果より、筆者が分類したものである。

(2) 会話中の記号の意味は以下のとおりである。

〔発話が重なる最初の部分

*発話が聞き取れなかった部分

：直前の音が長く伸ばされて発話されている部分

(数字) 沈黙を秒数で表したものの例 (0.4) は 0.4 秒の沈黙を表す

h 吐息を表す (笑いを含む)

↑ 矢印直前の音が上昇して発話されることを示す

(3) [] は筆者注である。

主要参考文献

金志宣 (2000) 「turn 及び turn-taking のカテゴリー化の試み－韓・日の対照会話分析－」 『日本語教育』 105号：81-90

金志宣 (2001) 「turn-taking パターン及びその連鎖パターン－韓・日の対照会話分析－」 『人間文化論叢』 第4号 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科：153-165

小室郁子 (1995) 「"Discussion" における "turn-taking" －実態の把握と指導の重要性－」 『日本語教育』 85号：53-65

賈琦 (2008) 「小集団討論場面における話者交替の日中対照研究」 『世界の日本語教育』 18：73-94

初鹿野阿れ (1998) 「発話ターン交代のテクニック－相手の発話中に自発的にターンを始める場合－」 『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』 24：147-162

陳姿菁 (2005) 「日台の電話会話における新たなターンの開始－あいづち使用の有無という観点から－」 『世界の日本語教育』 15：41-58

村田晶子 (2000) 「学習者のあいづちの機能分析－『聞いている』という信号、感情・態度の表示、そして turn-taking に至るまで－」 『世界の日本語教育』 10：241-260

楊虹 (2007) 「中日母語場面の話題転換の比較－話題終了のプロセスに注目して－」 『世界の日本語教育』 17：37-52

Clancy et al. (1996) The conversational use of reactive tokens in English, Japanese, and Mandarin. *Journal of Pragmatics*, 26：355-387

MUKAI Chiharu (1999) The Use of Back-channels by Advanced Learners of Japanese: Its Qualitative and Quantative Aspects, 『世界の日本語教育』 9：197-219